

小高農業	豚舎 S30坪 1,620千円	1,500千円 フイードミキサー1, 種豚4, ラルクアット1, し尿処理車1, スチームクリーナーI
東白川農商	温室 S30坪 1,620千円	1,050千円 ビニールハウス1, 小型四輪車1, スプリンクラー, ベルトコンベアー
計	12,141千円 事務費	10,050千円 867 教育研修費7名分178千円 報償71千円,印刷製本費(体質改善のあゆみ)150千円

郡山商業高等学校	7			
須賀川高等学校	4	1	1	1
白河高等学校	2	6	1	
東白川農商高等学校	5	3		1
若松商業高等学校	5	2		1
喜多方商業高等学校		9		
西会津高等学校	3			2
平商業高等学校	6			1
小名浜高等学校	2	7		2
勿来高等学校	3	1	3	
双葉高等学校		6		
浪江高等学校	1		2	
相馬高等学校	3		1	
原町高等学校	5	4		
安積第二高等学校	4			
須賀川第二高等学校	1	5		
福島第二高等学校	3			2
白河第二高等学校	2	2		1
平第二高等学校	1	1	1	2
合 計	78	52	10	19

第17節 商業高校の体質改善

1 概要

科学技術の振興が、国策として強力に推進されるにともない、企業の近代化、技術の高度化がすすめられている現在、これらのすう勢に対応するために、商業界においては、最近、商品流通機構の整備、商店経営の合理化、ならびに事務改善等に特に関心がもたれるようになった。

国においても、かかる新時代の要求に応じた商業教育を行なうために、職業に関わる学科の教育課程を、昭和38年度に、大幅に改訂して、実験実習を重視し、理論と実際が遊離しないように取り扱うことにした。

産業教育振興法に基づく一般設備費による国庫事業では全部の学校に、急速にその条件をみたすことができないので、本県においては県単独事業として基礎的設備と近代的設備とを勘案した3か年充実計画をもってその底あげと近代化を合わせて図ろうとするものが、商業高校の体質改善事業である。

第一年次は、県内いずれの商業高校にとっても共通に必要な基礎品目として、かなタイプライタ、和文タイプライタ、英文タイプライタ、手動計算機を購入し、それらを次表のように配分した。

2 実施状況

(1) 備品配分 9,550千円

品名	かなタイプライタ	和文タイプライタ	英文タイプライタ	手動計算機
福島商業高等学校	6			2
福島西女子高等学校	2	5		2
保原高等学校	8			
本宮高等学校	5		1	2

(2) 教職員長期研修 450千円

商業科教員10名を派剌して、事務機械操作技術の習得をはかり、資質の向上をはかった。

研修期間 20日間

研修派遣先 クスタ事務機械株式会社(東京都)
株式会社黒沢商店(東京都)

第18節 定時制通信制教育

昭和38年6月24日「後期中等教育の拡充整備について」の文部大臣の諮問があり、

① 「期待される人間像」

② 「後期中等教育のあり方」

について検討され、昭和40年1月11日付で①についての中間草案がだされて種々批判されることとなった。

このことは、勤労青少年教育の問題が中心課題となっているのであるが、すべての青少年を対象として後期中等教育の整備をはかるにあたっては、その理念を明らかにするとともに、個人の能力、適性、進路等に応じて

(1) 目的、性格

(2) 教育内容、方法、授業形態、教員

(3) 教育機関の形態、制度上の位置づけ

などが検討されることとなったのである。

科学技術革新に対処して、高度経済成長に伴う社会の複雑化、国民生活の向上は、国民資質と能力の向上が期待されている。このことは、直接教育に対する大きな期